

胃癌における転移とニッチの形成に関する検討

【はじめに】

最近の報告では、肺癌において骨髄由来細胞とケモカインが転移に関与しており、これらが癌細胞を転移巣に定着させると考えられています。したがって、胃癌においても骨髄由来細胞やケモカインおよびそのレセプターが転移に関与することを、これらの発現を調査することで検討します。

【研究内容】

胃癌における原発巣と転移臓器における骨髄由来Hematopoietic cellの同定、ケモカインの発現意義を検討します。当科にて切除した胃癌のうち、リンパ節転移陽性の50症例とリンパ節転移陰性の50症例を対象とします。

胃癌の原発巣とリンパ節転移巣におけるVEGFR1陽性Hematopoietic cellを、パラフィン包埋切片を用いて免疫組織化学染色にて同定します。

抗体は骨髄由来のVEGFR1陽性Hematopoietic cellに発現しているVEGFR1およびCD133、CD34、CD117(c-kit)をそれぞれの抗体を用いて連続切片を二重染色します。

【研究期間】

研究を行う期間は平成24年3月までと考えております。

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

【医学上の貢献】

この研究により胃癌における骨髄由来細胞が転移にどのようにして関与しているのか、そして臨床病理学的因子および予後との関連が示唆されれば、新しい予後因子などが明らかとなり、医学上の貢献はあるものと考えます。

【研究機関・組織】

九州大学大学院 消化器・総合外科(第二外科)

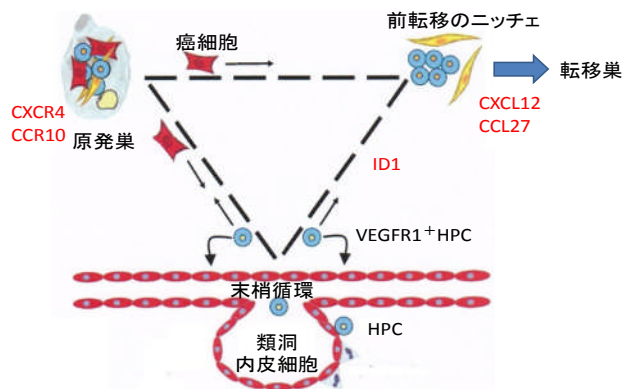
教授 前原 喜彦

准教授 掛地 吉弘

講師 森田 勝

大学院生 久松 雄一

図. 癌の転移における骨髄由来細胞の導引およびケモカインの発現



連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

Tel 092-642-5466

准教授 掛地 吉弘